

3章 関連する主な計画

3-1 熊本県総合計画での港湾の位置付け

平成12年に策定された熊本県総合計画「パートナーシップ21くまもと」～21世紀への責任と挑戦～では、「創造にあふれ、“生命が脈うつ”くまもと」を基本目標に掲げ、次の5つのくまもとを目指しています。

- 1 新世紀を拓く産業が息づくくまもと
- 2 新世紀を支える基盤が充実するくまもと
- 3 新世紀に生きる「ひと」が輝くくまもと
- 4 次の世代へ継承する豊かな環境をはぐくむくまもと
- 5 新世紀をともに築く「協働社会」くまもと

このうち港湾が担うべき役割・取組みの方向については以下の3つがあります。

新世紀を拓く産業が息づくくまもと

利用者のニーズや荷役形態の多様化に対応した港湾施設の整備を進め、併せてポートセールス⁵⁾による国内外定期航路の充実や誘致といったソフト面の取組みを進めることにより物流機能を強化し、地域の産業競争力の強化を図ります。

新世紀を支える基盤が充実するくまもと

熊本空港や新幹線駅、高速道路のインターチェンジ、主要港湾などへのアクセス道路の整備を促進するとともに、鉄道やバスなどの公共交通機関による結節機能を高め、空港、駅、インターチェンジ、港湾などを結ぶネットワークの強化を図り、総合交通体系の整備を今後も計画的に進めます。陸・海・空それぞれの特性に応じた総合交通体系の整備を推進することにより、日常生活や産業活動における県民の利便性向上を図ります。

港湾の整備については、物流や人流のニーズや動向を見極めながら、各港湾それぞれの役割に応じた着実な整備を促進するとともに、東アジアなどとの物流やフェリー、旅客船などの人流に関する港湾施設の充実を進めます。さらに、ポートセールスなどにより国内外の定期航路の拡充を図り、海上交通ネットワークを強化します。また、県民が海と触れあう場の創出や新たに造成した土地の有効活用を図るとともに、耐震岸壁や避難緑地を持つ災害に強い港湾の実現に努めます。

さらに、過去の自然災害を教訓に、海岸保全施設の整備や災害情報伝達などのソフト面の対策にも取組み、高潮・波浪・地震などによる災害の防止を図り、環境にも配慮しながら、災害に強い安全な県土づくりを進めます。

新世紀に生きる「ひと」が輝くくまもと

地域防災計画上の位置付けや、気象・海象状況の観測・監視体制を充実させ、安全な県民生活の確保を図ります。

5) ポートセールス：行政と民間の企業・団体とが一緒になって港湾の施設やサービスの充実を図り、港湾利用の拡大や開拓を目指して展開する活動。